

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●スルメイカ: 樺山北部の12月漁獲量前年比48.5%(122トン)、枝先の12月までの累計漁獲量は24.5%(1,200トン)、渡島西部の12月漁獲量は800%(411トン) ●ハタハタ: 不漁(留萌南部、石狩) ●ホッケ: 4月からの累計で数量149トンで過去5カ年平均の1割(奥尻)、樺山北部も不漁 ●マイワシ: 4,600トン超(11月累計、渡島中部) ●ブリ: 1日4,000本(11月: 後志北部)、1,200本(11月、稚内)	●南方系魚種の漁獲等 ・カマスサワラ漁獲(10月、余市) ・ナンヨウカイワリ漁獲(10月、余市) ・ツバメウオ漁獲(10月、樺山北部、2尾) ・抱卵アオイガイ漁獲(10月、稚内) ・オサガメ漂着(10月、稚内) ・アジアシヨウダイ、チカメキンキ、タカラタツ漁獲(11月、樺山北部) ・アカウミガメ漂着(11月、留萌北部) ●水産: 10月上旬は前年より+2.8～+4.3℃、中旬は+1.9～+3.0℃(渡島～稚内)	●ホタテガイ養殖: 稚貝入替え作業の大幅な遅れ(10月、石狩)、ザラボヤ付着の増加(11月、渡島北部)、高水温による開始の遅れと時化により半成貝の出荷の遅れ(12月、後志北部)、殻長に比べ重量が軽い(夏期の高水温の影響と考えられる、12月、留萌南部) ●コンブ養殖: 9月の高水温の影響により1年目の藻体の未枯れが過剰に進み、2年目に移行できない(11～12月、利尻島漁業者、礼文島漁業組合)、コンブノケウムシの寄生率増加(12月、礼文)	●12月上旬、大型低気圧の通過時に一部漁協施設の破損、漁具被害(後志南部) ●12月は時化が多く、出漁日数が減少した(後志南部、樺山北部、留萌南部)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	●陸奥湾に設置してある青森ブイ15m層の観測では、10月の月平均水温は21.7℃で前年値より2.5℃高く、11月も16.8℃と前年値より1.4℃高く経過し、9～11月の3ヶ月間連続して観測開始以降最高値を示した。その後も高めの状態が継続し、前年並みとなったのは12月第2半旬であった。	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●海面におけるサケの漁獲は、過去5年に比較して1～2旬遅れの10月上旬に始まったが、12月20日までの漁獲状況は前年に比べ尾数で35%、重量で18%、金額で36%、それぞれ増加し、尾数については河川の捕獲と対照的な結果となった。	●10月の地先表面水温の平均は、21.1℃と9月に引き続き高く推移し、過去10年の平均を1.7℃上回った。11月には、15℃台と前年並みの水温に転じ、高水温の傾向は終息した。	●水温の低下が遅れたため、養殖ワカメの沖出しが、例年に比べ1旬ほど遅い11月中旬頃となった。	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●10月までの高水温の影響から、サケ海面漁獲の初漁日がいずれも10月にずれ込み、前期群が不漁となった(前期群(～10月末)海面漁獲尾数11,441尾(前年22,202尾、前年19,311尾))。	特になし	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●昨年に続き、11月下旬から12月中旬にかけて、佐渡津波地区でカツオ(本カツオ)の水揚げが約400本(3～5kgサイズ)あり、この時期の水揚げは珍しく、それ以前の10年間で例がない事象です。 ●数値データは無いが、ズワイガニの脱皮ガニが11月下旬において例年にない高い割合で出現した(漁業者情報)。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	特になし	●この夏の七尾湾は海水温の高い日が続き、七尾市石崎港内定点でみると、7月以降に30℃を超えた日が39日あった。(H21:0日、H22:29日、H23:6日) この影響で、11月に入って養殖マガキのへい死が確認され、同月下旬に行った聞き取り調査の結果、海域によって差があるが、2年貝で3割～9割、1年貝で5割から7割と、これまでにない高いへい死率であった。	●今漁期の底引き網漁船によるズワイガニ漁は時化が多く、11月6日から30日までの間の延べ出漁日数は過去5カ年平均の69%であった。

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●県内漁獲量 ・ツバス前年同期比248%(10月の漁獲量は過去20年間で最高) ・ソデイカ前年同期比198% ・ケンサイイカ前年同期比28% ・スルメイカ前年同期比36% ・アジ類前年同期比32% ※集計期間は10～11月、前年は2002～2011年の10年平均	●夏季から秋季にかけて高水温が続いており、10月の月平均水温は観測史上最高となった(若狭町神子地先表面水温、1966年～)。12月現在は前年並み。 H24年度各月の平均水温(神子地先表面水温) ・8月 28.6℃(過去30年平均 27.3℃) ・9月 28.0℃(" 25.8℃) ・10月 24.0℃(" 21.9℃) ・11月 18.8℃(" 18.4℃) ・12月 14.7℃(" 14.7℃)	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●ソデイカは10～11月にかけて、前年比1.5倍の117トンの漁獲があった。ブリは12月上旬以降、沿岸定置網での好漁が続いた。ここ10年間の12月の漁獲量では、2010年の321tに次ぐ高い値(119t)であった。	●京都府沖合表層水温は、8月以降10月(25.8℃前年比+3.4)まで前年より高く推移したが、11月はほぼ前年並み(21.2℃前年比+0.8℃)に戻った。	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	特になし	特になし	●11月は時化が多く、まき網の出漁日数が少なかった。(出漁日数: 2012年15日、2011年21日) ●10月頃から多く漁獲されるサバの11月の水揚げ量が前年より少ない原因は時化による出漁日数減少と考えられる。(水揚げ量: 2012年2,212トン、2011年4,215トン)

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	特になし	●10月上旬の沿岸のクロロフィルaは9月に引き続き非常に低かった。 ●11月下旬の沿岸水温は前年同期より約2℃低かった。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	(10月) ●浜田の沖合底引き網のソウハチ1統1航海当たり漁獲量は前年の6倍であった。 ●隠岐の定置網のケンサイイカ1統当たり漁獲量は前年の9倍であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年10月～12月	●10～12月のマアジが不漁: 日本海側 中型まき網 漁獲量223トン(前年比25%)	●12月上旬沿岸域50m、100m水温甚だ低め(50m17.00℃、前年比-1.69℃、100m16.38℃、前年比-2.13℃)	特になし	特になし